



NSHIMURA VILLAGE

2020 1月

No.156

発行：西米良村議会



にしまら第10回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会

西米良村選手団 結団式

議会で



令和2年 年頭のごあいさつ

西米良村議会議長 濱 砂 恒 光

謹んで新春のお慶びを申し上げます。村民の皆様におかれましては、それぞれの抱負を胸に、新たな年をお迎えになられたことと存じます。

私たち7名の議員も、今年任期の2年目に入りますが、村の将来をしっかりと見据えて確かなものにしていくために活動して参る所存でありますので、村民の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年は天皇陛下が即位され、皇位継承に伴い元号も「令和」に改まりました。

即位に伴う一連の儀式も執り行われ、新しい時代の幕開けを感じた年でありました。

また、年末には新国立競技場も完成するなど、東京五輪・パラリンピックでの日本の若い選手たちの活躍が期待されるところでもあります。

一方、各地で台風の大雨による被害が相次いだ年でもありました。本村でも台風17号の影響により、山腹や道路、河川等が被災し、公共事業で対処する復旧個所だけでも40箇所近くにのぼり、年明け早々からこうした復旧事業が計画的に進められます。

昨年は、村政施行130周年という大きな節目の年となり、これまでの村の歩みを再確認する機会となりましたが、同時に将来へ向けての新しい一歩を踏み出す契機ともなりました。本村が取り組まなければならない課題も山積している今日ですが、私たち議員も新たな一歩を踏み出し、村民の皆様と共に歩む議会でありたいと存じます。今年一年が皆様にとって健康で幸多き年になりますことをお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

12月定例会

補正予算や条例改正 など原案どおり可決

令和元年第4回定例会を12月6日から10日の5日の会期で開催し、報告4件、条例改正など8件、補正予算5件などの審議を行い、全て原案どおり可決した。

また、一般質問を4議員が行った。

一般会計補正予算 の状況

4億1千28万3千円を追加
総額36億5千849万2千円

補正予算質疑

◆一般会計

問1 カリコボーズの宿

リニューアル事業に係る
工事請負費の内容とその
後の計画は？

答1 県が行う護岸工事に
伴いキャンプ場炊事施設
やバーベキュー施設を

撤去する必要があるため
で、その後は構想計画に
基づき整備を進めていき
たい。

問2 有害鳥獣被害く
り農購入事業補助金減額
の内容は？

答2 当初県の補助金を
活用し実施する予定であ
ったが、国の100%補助金
が内定したため、そちら
に組み替えて事業を実施
するため。

問3 情報系パソコン等
の修繕料の内容とバッテ

リニューアル事業に係る
工事請負費の内容とその
後の計画は？

リーの交換理由は？

答3 タブレット5台分のバッテリー代と電子黒板の修繕料となっている、理由については使用頻度が非常に高かったため。

問4 ドローン購入後の使用目的と管理体制は？

答4 柚子振興を移住定住に繋げるための柚子園管理と災害時の現状把握に活用するため、むら

創生課で管理を行う予定である。

問5 ふるさと納税の実績と返礼品の内容は？

答5 92件、128万5千円の実績で、前年度比で152%増となっている。返礼品については地場産品に加えグランピング施設の利用券など新しい分野の取り扱いも行っている。

問6 村道工事請負費の増額の内容は？

答6 村道狭上線と山中線の舗装工事を予定している。

問7 農業用・林業用施設災害復旧費の内容は？

答7 台風17号による災害復旧費で農業用が畦畔崩壊2件と作業路路肩決壊2件と林業用が災害工事

事で竹之元谷線の林道3箇所

の工事費となっている。

問8 ユズ園地マップデータ作成委託の内容は？

答8 農林課で整備した村内のユズ園地のマップ、園地台帳などの情報を水土里ネットに載せデータ管理を行っていく事業となっている。

特別会計補正予算の状況

今回の補正は、人事院勧告に基づく人件費調整が主なものである。

◆国民健康保険事業
54万8千円を追加
総額2億7千962万9千円

◆国民健康保険診療所事業
36万4千円を追加
総額2億6千20万5千円

◆介護保険事業
6万3千円を追加
総額2億4千194万円

◆簡易水道事業
43万1千円を追加
総額6千157万6千円

特別会計質疑

国民健康保険事業

問 資格マスター整備に伴う5万8千円の内容は？

答 国保連合会が、被保険者全体のマスターを整備するための経費として、徴求されるもの。

条例改正

給与・手当等が引上げ

● 国の人事院勧告に伴い給与・期末手当に関する条例が一部改正された。

● 一般職員・特別職の職員で常勤のもの・議員

期末手当の支給率が0.05%引き上げ

● 一般職員
初任給及び若年層の俸給月額を平均1千500円程度引き上げ

● 臨時・非常勤職員の給与等が見直される

地方公務員法の改正による会計年度任用職員制度の導入に伴い、嘱託員・臨時職員の給与及び報酬並びに旅費及び費用弁償に関する条例が定められた。

ふたば園が認定こども園に

●

現在の村立ふたば園が令和2年4月に保育所型認定こども園に移行するための西米良村保育所設置条例が認定された。

新しいふたば園は、本村乳幼児の教育・保育の向上と地域の子育て支援拠点施設として竹原に本年4月完成予定。



●カリコボーズのホイホイ便

村内物流の効率化と利便性向上のため、村営バスと専任の配達員による貨物輸送が、まずは村所と小川間において今年度中に始まる。その実施のための条例が改正された。料金は、貨物1個につき100円。(基本寸法を超える場合は200円)



議案の採決結果

○全員賛成で可決した議案等

条 例	西米良村一般職の給与の一部改正
	特別職の職員の給与及び旅費の一部改正
	議員の費用弁償及び期末手当等の一部改正
	西米良村会計年度任用職員の給与及び費用弁償条例の制定
	西米良村保育所設置条例の制定
	カリコボーズのホイホイ便事業費分担金徴収条例の制定
	西米良村手数料徴収条例の一部改正
	西米良村印鑑条例の一部改正
補正予算	一般会計(第7号)及び(第8号)
	国民健康保険事業会計(第2号)
	診療所施設会計(第2号)
	介護保険事業会計(第3号)
	簡易水道事業会計(第2号)

第3回臨時会

令和元年10月15日に議会臨時会を開会し、次の議案について全会一致で可決しました。

◆村営バス1台購入

現在、村営バスは4台ありますが走行距離44万kmを超えている1台について買い替えをするものです。25人乗りで令和2年1月から導入される予定です。

購入金額は8,115,000円です。

◆平成31年度西米良村一般会計補正予算(第6号)

27,949,000円を追加補正し、予算総額は3,248,209,000円となりました。

内容は右のとおりです。

内 容	金 額
村政130周年事業広告料	530,000円
村政130周年式典運営委託料	700,000円
台風17号災害復旧に係る超過勤務手当	912,000円
タイヤショベル修繕料	294,000円
台風17号被害に係る農地災害復旧費	1,635,000円
台風17号被害に係る林道災害復旧費	25,378,000円
プログラム変更によるにしめらいキイキ文化祭委託料の減額	△1,500,000円
合 計	27,949,000円

調査報告 行政報告

総務文教常任委員会

長崎県新上五島町

若者を呼び込む移住定住対策

出生率低下や若年層の島外流出などにより人口減少対策が重要課題となつたため、移住定住対策を行い、現在までに220世帯388人の方が移住されている。

就労等支援としては、若者新規就労支援奨励金制度を創設し、40歳未満の方が町内事業所に就労し、就職後3年経過後に10万円を支給する制度で、60名の方が対象となり、この制度に加え公的奨学金の返還者に、年間上限20万円、36月分の助成制度を拡充し年度末で10名の方が利用されていた。

定住促進空き家活用事業補助金制度では、空き家バンク未登録でも移住者が空き家を改修する場合は補助の対象となるよ

う制度の見直しを行い、また改修するにあたり金融機関と連携し、借り入れ時の利率の優遇協定を地元銀行と締結している。

40歳以下の若者の住宅取得に対する支援として、若者定住促進事業補助金制度を創設し新築（上限150万円）購入（上限100万円）建替え（上限150万円）中学生以下の子供が

いる場合は1人当たり25万円。さらに町分譲地購入の場合は1件当たり50万円を加算し建築工事については、地元の大工のみで対応している。新上

五島町の移住定住対策については、40歳未満の若い人達に限定した事業もあり若者を呼び込む取り組みに力を入れていることである。

佐賀県武雄市

SNSを活用した移住定住対策

田舎に特化した移住対策サイトから若い世代をターゲットにしたHPを今年5月にリニューアルしフェイスブックやユーチューブに連動させ移住者の生の声が聞こえるほか、空き家、空き地情報、子育てや仕事の情報などをメインに載せ工夫をされていた。

や民間の物件サイトの紹介を行い、仕事であれば商業、農業などの職種に応じてそれぞれの担当課と一緒に対応し取り組まれている。

また、若い世代の取り組みを図るため高校生のまちづくり参画事業や若者に特化した取り組みを行い移住定住窓口のワンストップ化を図り移住相談があった場合は、担当課で対応し住居の相談であれば市の空き家バンク

独自の取り組みとして、農地取得に関し農業委員会取得要件の緩和を行い空き家に付随する農地に関しては1㎡から取得することができ農業や家庭菜園をしたい移住者にも対応している。

移住支援制度は、中心地と周辺地に分け助成を行い人口減少が進んでいる、周辺地に移住者を増やすため子育て世帯向け住宅の建築や教育移住に

も力を入れICTを活用した取り組みもされていた。



現在、武雄市には、7名の移住支援員が活動をされていて、住まい支援課だけでは移住定住には繋がらない部分が多いため、オール武雄として移住施策を行い各課からの情報を集め移住者のニーズに合った紹介や武雄市空き店舗活用事業や保育士等就職支援事業などの様々な補助事業を紹介して移住定住に繋げていきたいとのことであった。

農林振興建設常任委員会

長野県喬木村^{たかぎ}

夜間・休日議会を開催

喬木村は人口約6千300人の村である。

住民からの議会活動への関心を高め、性別や年齢そして職種に関係なく議員活動に参加でき将来を見据えた議会改革を進めるための対策の一つとして、夜間・休日議会を開催している喬木村議会の運営内容について調査を行った。

まず、喬木村が夜間・休日議会導入に至ったきっかけであるが、平成29年の議員選挙において定数12名に対し、立候補予定者が10名に達しない状況となり「再選挙」が心配された。結局定数は満たしたが、今まで農業・自営業だけだった議員が

選挙で会社員・団体職員・観光農業者・会社役員という職業構成に変化したため「兼業議員」でも議員活動ができるための一つの手段として夜間・休日議会開催を取り入れたとのことである。

【基本内容】

- ・夜間議会開催は6月と12月の定例会とし、会議時間は2時間以内とする。
- ・3月と9月の定例会については昼間開催とする。
- ・すべての定例会における一般質問は土日のいずれかに行う。

【成果】

- ・夜間開催の常任委員会傍聴者が平均2名から5名に増えた。
- ・休日開催の一般質問は

傍聴者が平均6名から15名に増加した。

・昼間の仕事に支障がなくなったため議会活動に取り組みやすくなった。

【課題】

- ・2時間という時間制限があるため特に兼業議員は事前準備が必要になる。
- ・議会開会中に、問題事案が発生した場合、休みのため関係機関への照会・確認ができない。
- ・片手間議会とかパフォ



ーマンスでしかない等、まだ一部の住民に理解をしてもらえていない。ということであった。

本村議会も昨年4月に実施された統一地方選挙では12年ぶりの選挙となったが、議員の成り手不

足対策や村民からの議会活動への理解は充分ではないと認識している。

現状を検証し、本村の実情に適した議会運営と活動の在り方をしっかりと進めていきたいと強く感じたところである。

長野県下條村

若者を定住させたい

村から急激に若者がいなくなっていく状況を打破するために、地元はもちろん他市町村の若者も呼び込み定住させるため住宅施策と少子化対策を軸に若者定住につなげる計特殊出生率が日本一にもなった下條村（人口約3千700人）の取り組みについて調査を行った。

【住宅整備について】

若者に住んでもらいたいという当時の村長の考えから、若者が好むマン

ション風の集合住宅を平成9年度から平成18年度までに10棟124戸建設した。部屋は隣室の音も全く聞こえない大変しっかりとした造りで、広さは2LDK、駐車場も1部屋2台分確保され、家賃は月額3万1千円〜3万4千円となっている。

入居対象は、子供がいる夫婦かこれから結婚する若者となっており、地区の行事参加や消防団に加入することも入居条件

の一つで、現在の入居率は約90%であった。

また、移住希望者には、1週間無料宿泊できる住宅（空き家改修）を準備し、生活体験ができる体制をとっている。

【少子化・子育て支援対策】

子育て支援事業に対しては、「子育て応援基金」を創設（現在11億円）し、その利息を支援の財源として充当している。

- ・ 出産祝い金
- ・ 多子世帯育児支援
- ・ 入学祝い金
- ・ 給食費補助

・ 高等学校通学費補助等の他、子育て支援センターを開設し、子育てコーナーを開設し、子育てコーナーによる週2回の相談窓口を開催、他市町村と連携した婚活事業も展開している。

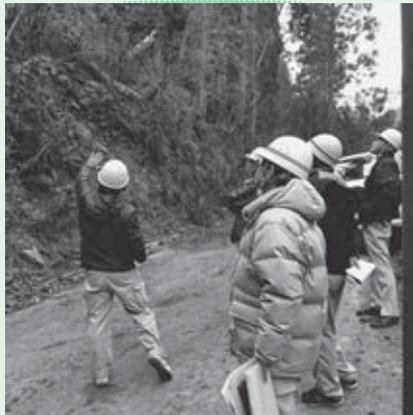
財源が厳しかった下條村は職員の民間職場体験



によるコスト意識改革と住民の行政依存脱却を図りながら、村全体の大幅なコスト削減につながることで、各施策ができるようになったとのことであった。

本村の手厚い子育て支援事業を活かし、若い人たちが実際に住んでもらせるための計画的な住居対策を更に進めていく必要性を改めて感じたところである。

縄瀬山中地区
山腹崩壊・水源地



現地調査

台風17号による
災害調査



竹元谷地区
治山・林道



一般質問

上米良 玲



HPの更新状況とSNSの今後の活用は

検証を行いき前向きにしたい

大事な部分ではないかと考えている。

そこで、現在の更新状況と更新に携わる職員についてと、情報の発信の観点から近年では、様々な分野においてSNSの利用が進んでいる首相官邸においてもFacebookやLineなどのSNSを利用した情報発信を行っているようだが、本村においても村所轄などの各施設にWi-Fi設備を設けるなどネット環境は進んできていないのではないかと感じているが、Wi-Fiスポットの掲示も無いことから、あまり知られていないのではないかと不安に思う。西米良へ来て頂いた方々が情報発信して頂くことで情報の輪が広がりが多くの方に、西米良

の情報を発信することができるとは、ネット社会が進んでいる現在において本村にとっても大変重要なことではないかと考えているが、本村でも取り組まれる考えはないか伺いたい。

村長

本村のHPは平成28年度に更新され村民向けの行政情報ページと観光・移住検討などの村外者向けページで構成されている。情報の更新については総務課で総括管理しながら、更新が随時必要なものについては各担当にて対応しているが、更新漏れがあるのは事実である。今後HPの適切な運用管理をするため、各課に更新担当職員の配置や職

員の異動等を考え定期的な研修を行い常時管理できる体制を取りたい。

SNSについては、個人の携帯電話などの端末に直接情報を送るなどの双方向の情報やり取りでき、即効性、手軽さ、情報拡散性があるほか財政負担や情報発信の省力化などの効果も期待できるため全国の自治体でも住民の行政情報の取得や観光情報の発信、災害時の情報提供など普及利用が進んでいる。本村に関するものとしては有志によりFacebookに西米良応援隊という非公式のものが開設されていて、そこに観光協会や各施設から情報提供を受けイベントや施設情報等を発信しているのが現状

である。

しかし、その手軽さから情報の漏洩や誤情報や不適切な発信などのリスクもあり、また情報を得る住民側においても利用できる方と出来ない方の情報格差の課題もある。SNSは全方向性の発信性が非常に高く情報の取り扱いには厳格なルールや高い管理体制が必要となり、知識や技術を有する職員による管理も必要となるためICTや情報通信サービスなどを含めた情報政策分野に精通する職員の育成も必要となってくる。これからの5Gなど高速の情報源をしっかりと捉えることは必要だと思

っているため、そのような方向に向けて体制の整

西米良村ホームページ

の、閲覧や操作について以前より使いづらくなってきたなどの話を聞くことがあり、また古い情報などが掲載されている時も見受けられる。村外の方が、いち早く西米良の情報を知りえるツールとして、ホームページの重要性は極めて大きく交流人口増を目指す本村にとっても

できないと認識している。このような観点からも地域包括支援センターの体制をどのように見直すか検討が必要である。これまでと同様のやり方で行くか、それとも村が総合的な相談窓口、一応相談窓口等を行うかを含めて検討していく。村には、医療をはじめ福祉関連部に各専門職がいるので、

的確な結びつきを行うことができるが、社会福祉法人は、事業料が激減することになり、経営に対する大きな影響が懸念されるため、担当課を中心にさらに、検討を進めてまいりたい。

令和2年度は、西米良村の長期総合計画等の見直しの年にもあたっている。それらと調整しながら



白石 幸喜



ユズ選果・搾汁施設を ▼ 選果厳しい・搾汁前向きに

ら地域包括ケアシステム
の充実に向け西米良だからこ
ろでできる、そのような体制
づくりに向け取り組んでいく。

品質の均一化に加え生産者や関係者の負担軽減と効率化を図ることは所得向上と後継者及び担い手確保につながるものと考える。そこで、ユズの高付加価値化を図り関係機関等と連携した地産外商を進めるためのユズ選果・搾汁施設が必要だと考えるが村としての考えを伺いたい。

また、選別機については現在の出荷量からすると導入は厳しいと考える。意欲的な生産者や後継者を支援していくために現場の意見を伺いながら実態に即した対応をしていきたい。

成23年に導入した搾汁設備は人的部分が多く現在の最新機器からすると機能性や効率性はかなり落ちると思っている。今後、生産者の皆さんの協力をお願いしながら新機種への更新等踏まえ前向きに検討したい。

村長 村内のどの産業においても労働力不足・担い手不足の確保は喫緊の課題である。その確保対策の一つとして地域間の連携した労働力の補充がある。現在、JA西都と期間

昭和48年頃から栽培が始まった西米良ユズは本村を代表する重要な農産物である。このユズの安定生産と



技術職の職員 確保対策を ▼ 村独自の 支援策を行う



白石幸喜 自治体戦略2

040 構想研究会の報告において、人口減少や高齢化により地方自治体職員の減少が危惧されている。本村でも診療所や保

育園等において資格免許を有する職員が必要であるが、その確保は現在でも大変困難であると認識している。そこで、各種

学校卒業後及び通信教育等で資格免許を取得すれば本村での就業が必然となるような体制づくりや

支援対策ができないもの

か伺いたい。

村長 本村では看護師・保健師・保育士等の有資格者について随時年間を通して募集採用を行っているが、なかなか応募がないというのが実態である。そこで、関係する学生を実習等で受入れながら西米良を知ってもらえ

るようなシステムを各学校と協力して構築していきたい。また、本村で就業することを決めた学生に対しては西米良出身者に限らず奨学資金制度等を新設し支援策を実施する方向で現在検討している。

化がみられるか？

教育長 本村では、小・中

学校とも児童・生徒のICT活用意欲が全国と比べて高く、授業では電子黒板や一人一台のタブレットを活用することで、学習意欲が喚起され、主体的な取り組みがみられるようになった。他にも、友だちの考えや意見を共有し、話し合い、対話的な学習を通して理解が深

まるようになってきている。

黒木竜二 先生方のICT活用の意識格差はないのか？

教育長 児童・生徒及び職員への調査から、ICTの活用が「ほぼ毎日」活用されているという結果がでてきている。赴任して実績を積み重ねた3年目の職員と赴任してきたばかりの職員では、意識格

差というより、機器の操作技術に差がある為、実務研修会を実施する等してスキルアップをしている。

黒木竜二 ICT整備に

おいての今後の取り組み展望について

教育長 1つ目は大学等と連携し、テレビ会議システムを活用した遠隔授業を日常的に実施していく。2つ目は小学校のプログラミング教育の対応として、その環境を整備・指導していく。次代を担う生徒が今後予測できない変化を前向きに受け止め、自らの可能性を發揮できるように、県内の魁となってICT教育に取り組んでまいりたい。

黒木竜二 これからの子供達が、西米良でおこる

様々な問題や取り組みを推察し、ICT（情報通信技術）をフルに活用しながらこの地で活躍できる受け皿づくりも考えていく必要があるのでは。

同時に心の教育が備わっていることが重要だ。小手先だけの教育になるとなく、しっかりとした基盤で教育行政に励んでいただきたい。

ICT教育の現状・展望は ▼ 先がけとなるICT教育に 取り組みたい



黒木 竜二

実際に教育現場では、

ICTを活用することで

児童生徒にどのような変

な学習を通して理解が深

かりの職員では、意識格

有し、話し合い、対話的

の職員と赴任してきたば

友だちの考えや意見を共

実績を積み重ねた3年目

るようになった。他にも、

果がでてきている。赴任して

体的な取り組みがみられ

活用されているという結

学習意欲が喚起され、主

Tの活用が「ほぼ毎日」

レットを活用することで、

職員への調査から、ICT

子黒板や一人一台のタブ

児童・生徒及び

比べて高く、授業では電

T活用の意識格差はない

ICT活用意欲が全国と

先生方のICT

中学校とも児童・生徒の

先生方のICT

本村では、小・

先生方のICT



授業はICTで!

ICT(情報通信技術)は、さまざまな形状のコンピューターを使った情報処理や通信技術のことですが、それらを使った研究公開が令和元年11月14日に村所小学校と西米良中学校で開催されました。

このICT教育で児童生徒たちはタブレットに自分の考えなどを記入し、そのことを電子黒板に掲示しながら、先生や他の児童生徒たちと考えを共有したり違いを見つけたりすることができるようになっていました。特に、テキストによる文字情報だけでなく伝えにくいことを動画や画像などを使って楽しみながら効率的に学習授業を受けられる様子が見られました。

一方で、機器の故障や情報漏えい問題に加え児童生徒の想像力低下につながるなどの指摘もあります。

しっかりとした運用で本村の児童生徒たちが更により良い環境で教育が受けられるよう対策をとりながらサポートしていく必要があると思われました。

また、西米良中の生徒は宮崎大学生と遠隔授業を行い、中武知也さん(宮大4年生・村所出身)たちと“西米良村への来訪者を増加させるにはどうすれば良いか”について意見交換をしました。するどい意見もあり、頼もしく感じながら聞かせていただきました。



編集後記

あけましておめでとうございます。今年も一年、ありがとうございました。ことに確実に自分の年齢が増えています。生涯現役、西米良村!令和2年も頑張りましょう。さて、今回は黒木が編集後記をまかされました。4名の一般質問、常任委員会の議員派遣による調査報告等の内容が記されておりあります。今おかれている、西米良の現状や問題点。これから進むべき「西米良村」を村民の皆様と一緒に考えていきたいような、本紙でありたいと思います。

寒さが厳しくなると、体調も崩しやすくなります。こまめな手洗いうがいを行いましょ。

議会広報常任委員会

委員長 児玉 義和
副委員長 黒木 竜二
委員 白石 幸喜
上米良 玲